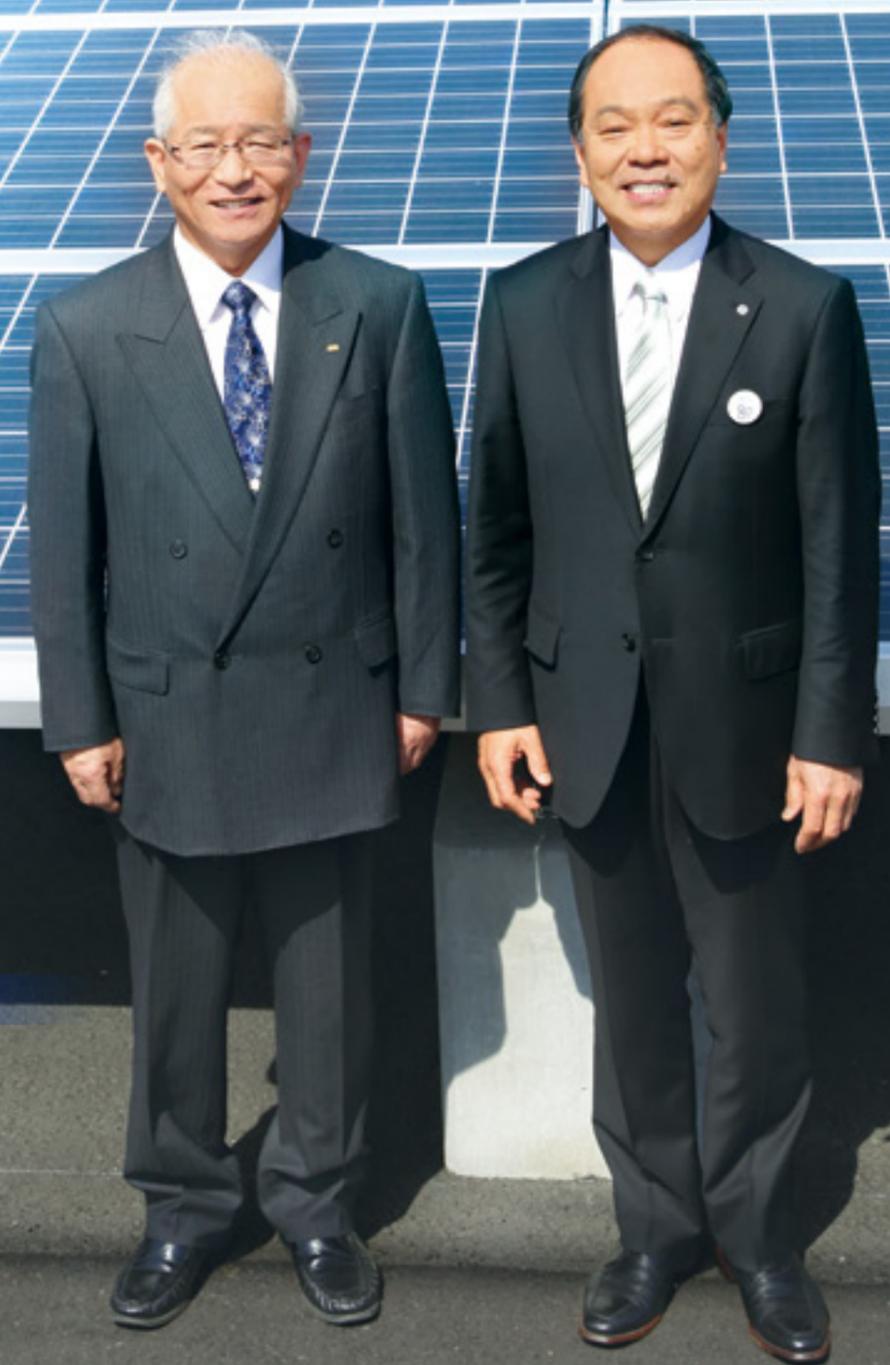


昭建石部ソーラー発電所



**高速道路や上下水道づくりに先進の技術を導入。
強くしなやかに、未来を目指す。**

車両走行への耐久性や強さだけでなく、弾力やしなやかさもアスファルトには求められる。県内外の4カ所のプラントから近隣各地の高速道路建設現場へアスファルトを供給しながら、自らも舗装工事を手掛ける昭建。環境配慮型の工法や材料を積極的に開発したり、「人と環境にやさしい建設工事」を追求するNPO法人を設立するなど、その企業姿勢は強さとしなやかさを併せ持つ。県内各地で設置計画が進むメガソーラー事業にいち早く乗り出したのも、鋭い感性の証しだろう。そんな同社が築く「未来の形」を山川守社長にお聞きしよう。

株式会社昭建

代表取締役社長
山川 守氏

interviewer
頭取 **大道 良夫**
取締役本店営業部長 **児玉 伸一**

**インフラづくりを担う建設企業が
メガソーラー事業に参入**

大道●野洲川とJR草津線に挟まれた約5220坪の敷地に、5600枚以上のソーラー発電用パネルが陽光を浴びています。今年2月から発電を開始した湖南市の「昭建石部ソーラー発電所」。年間の総発電量は一般家庭500世帯へ電力供給が可能な170万キロワットに達し、約530トンのCO₂削減効果に相当します。この発電所を設置されたのが、湖国の暮らしや産業を支えてこられた総合建設事業者、昭建さんです。

山川■当発電所は発電能力が高いパネルを使ったり、送電ロスが少ない仕様で配線するなど、設置面積やパネル数に対する発電効率が高まるよう工夫しています。また、ライフサイクルコストの観点から全面をアスファルトで舗装し、電車の運行を妨げないよう反射光を抑えたパネルを採用するなど、周辺環境にも配慮しています。

大道●昨夏の再生可能エネルギー固定価格買取制度スタート以降、自然エネルギー導入の気運が全国で高まっていますね。
山川■東日本大震災は大規模発電に頼らない再生可能エネルギー供給社会の転換を私たちに迫りました。当社もそんな時代の風を感じてメガソーラー事業に参入しまし



ソーラー発電用パネルがずらりと並ぶ「昭建石部ソーラー発電所」



型枠を使わずコンクリート構造物を造る「スリップフォーム工法」(新名神高速道甲南トンネル舗装工事)

た。もう一つの動機は、私たち建設事業者が「受注待ちの体質」から一歩踏み出す時を迎えたと思ったからです。自らが知恵を絞って業を興す、そんな体質に生まれ変わるための第一歩にできればと考えました。

大道●公共事業は活気を取り戻しつつありますが、建設業界を取り巻く状況が本質的に変わったわけではありません。そんな中、御社の経営状態は極めて健全です。本業のインフラ事業、建設材料販売事業における「元気の理由」をぜひお聞かせください。

**舗装と上下水道に特化して
大手に対抗できる技術力を磨く**

山川■上下水道工事や高速道路の舗装工事で数多くの実績を残してきた当社ですが、元は琵琶湖や県下一円の河川砂利の採取優先権と販売から始まった会社です。ルートは滋賀県の政財界の篤志家たちが県内の社

会資本、交通インフラ充実への寄与を目指して1923(大正12)年に創業した「近畿パラスト」です。そして32(昭和7)年、世界大恐慌のさなか、創業精神、権利設備一切を事業継承して、企業家経営による当社の母体「昭和パラスト」が創立されました。

児玉●そこから数えて昨年、創立80周年を迎えられました。
山川■49年の建設業法制定時に滋賀県知事許可を取得して、「インフラ事業を建設材料販売事業に並ぶ柱に育てよう」と「昭和建設工業」に改称しました。しかし、当時は大型公共事業はほとんど大手ゼネコンが受注し、地場の企業では太刀打ちできない状況でした。67年の建設大臣登録を機に「舗装工事と上下水道工事の専門性を高めて、大手に対抗できる技術力を持つ」との方針を当時社長だった中村裕現会長が打ち出し、専門化事業体制の道を進みま

**アスファルトの生産から
現場施工までを一貫で**

した。中村会長の先見の明で、当社は湖国の地場企業として大きなポジションを得ることができたと思います。
大道●現在、石部と長浜のほか大阪府茨木市、三重県四日市市にアスファルト生産プラントを構えておられます。建設材料販売事業の中核施設であるとともに舗装工事を請け負われる際の強みにもなっているのでしょうかね。

山川■アスファルト舗装が登場した1950年代後半から草津砕石工場を開設し、舗装用骨材も扱ってきましたが、64年にアスファルト合材の製造、販売を専業とするメーカー時代の到来を見据えて、石部にアスファルト合材工場を開設しました。それまでアスファルト合材は自社の施工現場で使う分だけ仮設プラントで現場生産していましたが、全自動設置プラントですぐに供給できるようになり、価格面での優位性で引っぱりだこになりました。そして67年、茨木にアスファルト合材工場を開設。通常のプラントなら毎分1トンの生産能力ですが、ここは現在、毎分4トンという国内最大級の生産能力を誇っています。

児玉●主要な供給先は、高速道路の新設、改修事業の元請けである大手建設会社



代表取締役社長
山川 守氏 (やまかわ まもる)

1951年生まれ。69年、株式会社昭建に入社。建設事業部道路部長、執行役員工務部長等を経て2002年、代表取締役専務に就任。06年、代表取締役社長に就任。08年、昭建グループ株式会社取締役に就任。

経営理念

昭建は 優れた技術と経営により
豊かな社会環境の創造に貢献し
企業倫理を重んじ
社会から信頼される
豊かな企業をめざす

【会社概要】

株式会社昭建

- 資本金/5億円
- 従業員数/165名
- 事業内容/上下水道・河川・橋梁・砂防ダム等の土木工事、舗装工事、建築工事、アスコン・砕石・骨材など建設材料の販売、産業用廃棄物中間処理事業、グリーンエネルギー事業
- 本社/大津市浜大津2-5-9
- URL/http://www.kk-shoken.co.jp/

【プロフィール】

- 1923年 近畿バラスト株式会社創業
- 1932年 昭和バラスト株式会社創立
- 1949年 昭和建設工業株式会社に社名変更
- 1964年 石部アスファルト合材工場開設
- 1967年 茨木アスファルト合材工場開設
- 1972年 株式会社昭建に社名変更
- 1977年 長浜アスファルト合材工場開設
- 1982年 三重アスファルト合材工場開設
- 2003年 昭建グループ株式会社を設立
- 2013年 石部ソーラー発電所開設



石部アスコン工場のプラントの前で、左から大道頭取、山川守社長、児玉本店営業部長

なのですか？

山川 ■ ご指摘の通り、国や各高速道路株式会社(NEXCO)から舗装Aランクに格付けされた大手企業が大半です。舗装工事は隣発力が命。必要とされる時に必要な量のアスファルトを供給できなくては工事を滞らせてしまいます。当社のプラントは高い生産能力を持つうえ、石部は名神高速道や新名神高速道、茨木は中国道や阪和道というように高速道路網とアクセスが抜群な場所にあり、昭建グループの昭建運輸が軽快なフットワークで現場へお届けできます。高速道路の舗装に使われるアスファルトのうち、大阪北部地域では25%、滋賀県では35%を当社が供給しています。

大道 ■ なるほど。御社の占有率の高い理由がわかりました。

山川 ■ 当社が舗装工事も請け負う場合

には、アスファルト工場を持つ意義はさらに大きくなります。発注者が求めるアスファルトの特性を付与できる上、余裕があるタイミングに自社向けを造ればコストを下げられますし、納期も融通が利きます。結果として工事全体の工期、コスト、品質すべての面で優位性が得られるわけです。

スリップフォーム工法など最新の工法、材料と常に向きあう

大道 ■ 建設材料の生産から運搬、現場施工まで一貫して手掛けることは想像以上のメリットがあるのですね。

山川 ■ おかげで78年に北陸自動車道長浜舗装工事を初めて元請けとして受注して以来、着実に実績を積み、90年には念願の旧道路公団の舗装Aランクを獲得。以降、京滋バイパスや新名神といった大型プロジェクト

山川 ■ 4プラントの操業に少なくない電力を使う当社だからこそ、再生可能エネルギーが事業継続に好影響をもたらすことを実証していきたいですね。

「豊かな社会環境」を目指し持続可能な社会づくりに貢献

大道 ■ 「CESA(循環型社会形成推進協議会)」というNPO法人を県内の建設会社と設立されておられますね。

山川 ■ 建設業は本来、自然と調和した、地域の特色を生かした環境を創る仕事です。しかし、私たちの業界はPRが苦手なため、建設業の本当の姿が認知されていないのが実情です。CESAを通じて「人と環境にやさしい工事」の姿を探りつつ、「地域の望まれているものを創る」という本来の姿を皆さんに知っていただきたい。その思

クトに多数参加してきました。99年には国土交通省からもAランクに格付けされ、国とNEXCOのAランクを持つ県内事業者は当社だけです。

大道 ■ 舗装工事では「スリップフォーム工法」という、型枠を使わずにコンクリート構造物を造れる技術を駆使されているそうですね。

山川 ■ 硬めに調整された生コンを専用機で施工していくだけで擁壁やセンターバリア、水路などが構築できます。最近ではコンクリート舗装にも採用され、新東名高速道や中部国際空港のエプロン(駐機場)がこの工法で造られています。

大道 ■ 高速道路の工期が短縮されている背景には、建設会社の技術力向上へ注ぐ情熱があったのです。日本の高速道路はきわめて快適に走れます。舗装の仕方も進化し続けているでしょうね。

山川 ■ コンクリートで堅牢な下地を造ることで、従来よりアスファルト層を減らせる「コンポジット舗装」に変わりました。通常より寿命が長いのでライフサイクルコストの削減や、アスファルトの原料は石油なので環境配慮にもつながります。また、当社は従来よりも30℃低い温度でアスファルトを練れる「中温化合材」の開発に取り組みなど、プラント操業の省エネも目指しています。

いで老人クラブや幼稚園で「工事ウォッチング」などを開催しています。

児玉 ■ なぜ、高齢者やお子さんが対象なのでしょう？

山川 ■ その地域らしさは年長者から子へ孫へと受け継がれるものですが、最近ほどでその関係が希薄になり、地域色が弱まっていると感じるからです。そこで従来から取り組んできた施工地域周辺の住民の皆さんへの説明会に子どもたちや高齢者もお招きし、ふれあいを高める場として演出しています。

大道 ■ すばらしい取り組みですね。また、当行も認定企業ですが、厚生労働省が子育て支援に熱心な企業に与える「くるみんマーク」認定企業に認定されました。

山川 ■ 「社員だけでなくその家族も大切にしたい」という中村会長の思いが当社の雰囲気にも反映されているからでしょうね。

社会インフラの老朽化対策にも自社開発の新工法で挑む

大道 ■ 石部の工場で、真夏や厳冬の苛酷な環境を再現しながら舗装の耐候性や耐磨耗性を検証する試験機を拝見しました。アスファルトに関して時代のニーズに応える製品を開発したり、品質を厳しく検証するなど、研究開発型のメーカーに通じる姿勢を感じました。滋賀県内をはじめ、数多くの実績がある上下水道での強みも教えてください。

山川 ■ 当初は道路を開削して下水管を埋設する工法を手掛けていましたが、大手企業に対抗するため、機械で大口径を掘りながら管の内壁を造っていく「シールド工法」に挑戦して得意分野の幅を広げてきました。おかげさまで最近では県外



過酷な舗装環境で耐磨耗性などを検証する「3連式水浸ホイールトラック試験機」の説明を聞く

男性の育児休暇取得率も高いのは、直属の上司が背中を押してあげてくれる空気をつくって定着させられたからだと思っています。

大道 ■ 昭建さんの「これから」をどう展望されますか？

山川 ■ 地域防災を支える建設会社として、大災害発生時の復旧・復興への活動体制の整備(国交省のBCP認定を取得済み)や、インフラの延命が重要になってくると思います。私たちも地場に根ざした企業として、自らが近隣をパトロールし、行政に技術提案などをして、公共の資産、予算を効率的に運用する「アセットマネジメント」に参画していくことが、今後、必要だと考えています。

大道 ■ 強さとしなやかさを併せ持つ昭建さん。学ぶべき点をいろいろ感じさせられました。本日はありがとうございました。